

| | | | | | | | |
|--------------------|---|---|----|---------------|--------|------|----|
| 科目名 Course Name | 社会心理学 Social Psychology | | | ナンバリング No. | A3-009 | | |
| 年次 | 2年 | 期別 | 前期 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 |
| 担当者氏名 | 秋山 真奈美 | | | | | | |
| 連絡先(質問等) | 講義棟3階研究室かC-Learning に対応。オフィスアワーは火・土・授業・会議時間を除くものとする。 | | | | | | |
| 必修/選択 | 選択 | | | | | | |
| 関連 DP | DP5 | | | | | | |
| 授業の概要と到達目標 | 社会心理学では、私たち自身(個人)と、私たちが所属する社会集団との関わりに焦点をあて、私たちの「こころ」のしくみについて考察をしていく。個人が社会集団の中でいかなる認知をするのか、さらに「他者」との関係の中で私たちはどのように適応しようとするのか、あるいは「集団」の一員と化した時に人はどのようにふるまうのか、といったことが講義の柱となる。また、臨床心理学的見地を含め、社会心理学の周辺領域における社会科学の基本的な考え方や技法を紹介するので、これらを自分の生活の中に認められる様々な現象・行動に“主体的に”当てはめ、人の行動についての理解を深める一助として欲しい。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて進行する。単元の終了ごとに小テストを行う。学期末に論述試験を実施する。好ましい論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。1年次の心理学以上にワークとディスカッションを行い、人間の心理的変容の過程をアクティヴ・ラーニングする。演習後はリアクションペーパーの提出を求める。 | | | | | | |
| 学習成果 | L01 | 対人関係技能や社会的ルールにおける心理学的要素を弁え、実践できる。 | | | | | |
| | L02 | | | | | | |
| | L03 | ①個人や集団の行動の裏に潜む、反応の根拠や法則性に気づき、言及できる。 ②興味を持って人間の営みを観察する視点を身につけ、社会的な課題に対し、学んだことと身近な事象とを結びつけることができる。 | | | | | |
| | L04 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 小テストは実施翌週に返却する。学生はその問題をヒントに期末考査の論述試験対策を行う。自発的学習者には随時模擬論述の添削を行う(ただし第15週まで)。 | | | | | | |
| 教科書/参考図書 | 教科書:安藤香織・杉浦淳吉[編]『暮らしの中の社会心理学』ナカニシヤ出版 参考書は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。 | | | | | | |
| 履修上の留意点やルール等 | 私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は授業参加態度において減点の対象とする。事前・事後学習時間の目安は各回180分相当とする。期末考査においては自筆ノートの持ち込みを許可するので、指定された事前事後学習を熟しておくことで相当に有利となる。 | | | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|--|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | 講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。疑問に思ったことを臆さずに質問できるとたいへん好ましい。演習での積極性は高く評価する。事前学習・事後学習をきちんと行っているかどうか、その内容を口頭確認した時に応えられること。 | 20 | | | |
| レポート／作品 | 演習後のリアクションペーパーの内容を評価の対象にする。演習に真摯に取り組む、その体験から得たことを的確に文章化できていることを期待する。 | 10 | | | |
| 発表 | | | | | |
| 小テスト | 日常の努力点として勘案。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。 | | | 10 | |
| 試験 | 設問への適切な回答、学習の成果が反映されている回答がなされていることが評価の要件となり、日常生活における事象・事例の記述や演習体験、多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。 | | | 60 | |
| その他 | | | | | |
| 合 計 | | 30 | | 70 | |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|--|
| 1 | 授業内容 | オリエンテーション：心理学とは 社会科学と社会心理学について |
| | 事前・事後学習 | 事前学習は不要。受講を決めたら、事後学習として、日常生活における“ちょっと気になる心理学的現象”をピックアップする。 |
| 2 | 授業内容 | 社会的適応：集団社会での適応 リスク認知とリスクコミュニケーション |
| | 事前・事後学習 | 事後学習として、リアクションペーパーを記述する。 |
| 3 | 授業内容 | 社会的適応：ストレスとは ストレス耐性とコーピング |
| | 事前・事後学習 | 事前学習として、自分にとってのストレスフルな場面をピックアップしておく。事後学習として、授業内で学んだストレスコーピングを実践してみる。 |
| 4 | 授業内容 | 社会的適応：適応機制 こころの健康とは 対人関係がもたらすもの |
| | 事前・事後学習 | 事後学習として、適応機制の日常例をノートにまとめる。 |
| 5 | 授業内容 | こころを分かち合うコミュニケーション：非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーション 効果的なコミュニケーション 自己開示と他者受容 |
| | 事前・事後学習 | 事後学習として、リアクションペーパーを記述する。 |
| 6 | 授業内容 | こころを分かち合うコミュニケーション：アサーション（交流的主張） 社会的スキル |
| | 事前・事後学習 | 事前学習として、日常生活における自己主張がしにくい場面をピックアップしておく。事後学習として、リアクションペーパーを記述するとともに、授業内で学んだ交流的主張や社会的スキルを実践してみる。 |
| 7 | 授業内容 | こころを分かち合うコミュニケーション：ブレイン・ストーミングと合意形成 |
| | 事前・事後学習 | 事後学習として、リアクションペーパーを記述する。 |
| 8 | 授業内容 | 社会的認知：意思決定 価値と決定 購買・消費と所有の心理 |
| | 事前・事後学習 | 返却された小テストの復習を行い、期末試験対策を行う。 |
| 9 | 授業内容 | 社会的認知：社会的態度 態度変容 SDGs を意識した環境配慮行動変容 |
| | 事前・事後学習 | 事後学習として、SDGs を意識した環境配慮行動表を作成する。返却された小テストの復習を行い、期末試験対策を行う。 |
| 10 | 授業内容 | 組織行動：他者存在の影響 競争と協力 支配と服従 |
| | 事前・事後学習 | 返却された小テストの復習を行い、期末試験対策を行う。 |
| 11 | 授業内容 | 組織行動：リーダーシップとフォロワーシップ 集団意思決定 危機への対応 |
| | 事前・事後学習 | 返却された小テストの復習を行い、期末試験対策を行う。 |
| 12 | 授業内容 | 組織行動：外集団についての理解促進 多様な文化との交流 |
| | 事前・事後学習 | 事前学習として、日常生活における異文化交流の場面をピックアップしておく。事後学習として、異文化交流を実践してみる。 |
| 13 | 授業内容 | 社会行動：社会行動の研究手法 |
| | 事前・事後学習 | 返却された小テストの復習を行い、期末試験対策を行う。独自の社会調査用紙を試作してみる。 |
| 14 | 授業内容 | 社会行動：災害時の行動 災害時の精神衛生 援助行動 |
| | 事前・事後学習 | 自分事として、災害時の対策を考えておく。 |
| 15 | 授業内容 | まとめ：社会行動の理解と実践に心理学を活かす |
| | 事前・事後学習 | 返却された小テストの総復習を行い、期末試験対策を行う。 |